

お父様の詩

お前は一人で生まれてきて、一人で生きていくのではなく、私があるからお前があり、お前があるから、私があるのだよ。お前の罪は、人類の罪だ、お前が勝たなければ、お前よりもっと苦しんでいる人達はどうするかね。お前には、責任があるのだよ。私も、お前なら勝てると思ったからこそ、信じているからこそ今までお前を導いてきたんだよ。たとえお前が私を信じなくても、私は、お前を信じ愛しているのだよ。私は報酬を望まない、どんなに今まで裏切られてきたことか。それでも、私は、お前達を愛して信じてきたのだよ。お前がどんなに否定しても、お前は、私のかけがえのない娘だよ。お前の罪の故に、お前の苦しさ、悲しさの故に、私はお前以上に耐えてきたのだ。暗闇の中を、お前は一人で歩いてきたのではなく、いつも私が、そばにいたのを、お前はどれだけ知っていたのか。私の愛が聞こえるだろう。私は、こんなにお前を愛しているのだよ、さあ、信じてごらん。お前の中の私を愛してごらん、お前の中の私を、お前が立ち上がるまで、お前が勝利者となるまで、私は、いつでもそばにいてお前を見ているよ。私は、お前の親だから、お前を離すことはできないのだよ。戦って勝利して私を喜ばせておくれ、私の信じた娘は、私の愛した娘は、こんなに成長しましたと、神の前に、サタンの前に、誇ることできるお前であっておくれ。罪が少なくて勝利するのが簡単だった者より罪が多くて勝利するのが困難だった者が、勝利してくれた方が私にとってどれ程大きな希望となるだろうか。この娘は、本当に罪深かったけれども今ではこんなに成長しましたと、私に言わせておくれ。お前と二人で、天のお父様の前に報告に行ける日を私の唯一の楽しみにしているよ頑張るんだよ。何故、私がお前を愛したか。それは、お前が私の真実の子だからである。今日までお前は、自らの内にある罪の為に、汚れの為に悩んできたね。けれどもそういうお前を、この私が一度でも責めたと思うか、非難したと思うか。また、そのようなお前から醜いといって顔をそむけたことがあると思うか。そういう事の故にお前が苦しみ悩む前に私自信が涙を流したのだよ。数々の罪を持って生まれて来なければならなかったあわれな立場、そういう立場に立たせなければならなかったお前の故に。お前が、悩む前から私自信が悩んだのだ。私が、お前に与えた生命の故に、私がお前を愛したのだ。お前は、私の子なのだ。